

金時草の新規栽培者の育成に取り組んでいます

県央農林総合事務所

北陸新幹線の金沢開業後、加賀野菜の需要が拡大しており、特に生産量の少ない金時草などの品目に対する市場ニーズが高まっています。

しかし、金時草の産地である金沢市の花園地区では、農家の高齢化や後継者不足により栽培農家が激減している状況です。

そこで、当事務所では、高齢者を中心とした個人の農家に金時草栽培を勧めるだけでなく、集落ぐるみで米作りを中心に取り組んでいる営農組織に対し、米以外の品目でも所得を上げることを目的として、金時草栽培を働きかけることとしました。

まず、JAや金沢市と連携して、初心者でも金時草栽培の基本作業が分かるよう、動画で見る栽培マニュアルを作成し、金時草の栽培希望のあった営農組織に出向いて栽培講習会を開催しました。

その結果、平成27年度には金沢市の二日市営農組合において19aの金時草が作付けされました。

その後も、栽培する畑の選定や基本的な栽培方法の指導を行ったほか、販売面でもJA金沢市の共同出荷組織への加入を促し、市場ニーズに応えることができる品質の金時草作りと販売体制の強化に努めました。

平成27年度は金沢市場へ2tを出荷し、栽培初年度としてはまずまずの成績を上げることができ、また、共同出荷組織に加入し、当組合が加入する前には2戸まで減少していた組織の維持にもつなげることができました。

当事務所では、今後とも市場ニーズが高まっている金時草をはじめとする加賀野菜の生産拡大と米作り農家の所得拡大を進めるため、二日市営農組合に続く新たな担い手の発掘を進めていきたいと考えています。



現地検討会風景



調製・選別・袋詰め作業

問い合わせ先：県央農林総合事務所 農業振興部
(076-204-2101)